

ひろか

だより

第377号

令和5年12月14日

発行

弘果 弘前中央青果株式会社

TEL 0172-27-5511

弘果



年末大開放

年末のお買い物は弘前水産で!

24日(日)は休場日です

12/23(土)~30(土) 毎朝 午前10時まで

弘果この一年

令和5年も残すところあと僅かとなりました。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」へ引き下げられたことで、社会経済活動の正常化に向けて動き出しました。また、混迷を極める各国の情勢が国際政治・経済に大きな影響を与えています。国内経済においても、景気は緩やかに回復しているとは言われているものの、消費に直結する各種物価は依然として続いている状況です。

農業面においては、全国的な記録的猛暑により、農作物の品質や収穫量に深刻な影響を及ぼしました。また、青森県産農作物もその影響により、需給バランスや消費動向、価格等が大きく変動しました。

そこで、当社取扱いのりんご、やさい、国産果実、輸入果実それぞれの令和5年を振り返ります。

りんご

令和5年産りんごは、春先の気温や記録的な猛暑等の気候的要因が、全体的にその後の生育に大きな影響を及ぼしました。

8月1日の開市から11月30日までの累計は、弘果が数量340万3千箱(前年比90.2%)、平均単価5677円(同126.7%)、津軽りんご市場が数量178万4千箱(同98.2%)、平均単価5432円(同122.9%)と、昨年と比較し



て数量減の単価高で取引されました。

早生種については、記録的な猛暑日が続く、朝晩の気温が下がらない事で、着色管理が出来ず、思う様に収穫が出来ない状況となりました。また、開花期の霜害により、側花対応したことで、シブ果・サビ果が多く、全体的に下位等級品の多い出荷となりました。更に、猛暑の影響でヤケ果が多くなり、加工品や廃棄の割合も増えました。販売面では、全国性的に出回り量が少ないこともあり引き合いが強く、全体的に堅調な取引となりました。

晩生種の「王林」は品質、肥大ともに良好で、「有袋ふじ」「サンふじ」は、開花が早く、春先の凍霜害等によるシブ、サビ果が多く見られ、高温の影響による着色不良で、下位等級品の割合が

10月中旬から入荷が始まった「ジョナゴールド」は、長期貯蔵用の仕入れから堅調な取引となりました。しかし、高温障害による落果等の影響から、取扱数量は前年を下回りました。また「大紅采」は、干ばつの影響で玉伸びが進まず、収穫期前から落果被害が多く見られたことで、取扱数量は前年を大きく下回りました。

中生種については、記録的な猛暑日が続いたことと少雨の影響から、高温障害による落果、ヤケ果の増加、着色遅れ等により、昨年と比較して取扱数量が減少しました。また、熟度が進んだことにより、全体的に前進出荷となりました。販売面では「トキ」は海外需要の高まりから、「早生ふじ系」は、早生種の在庫量が少なかったことで、消費地からの引き合いが強く、活発な取引となりました。

た。

やさい

令和5年の野菜の動向は、気象的要因が、生産消費に大きな影響を及ぼしました。

年明けから春先にかけて、全国的な寒波と降雪の影響から生育が鈍化し、入荷量が減少しました。末端では、あらゆる物の値上りから、消費者の買い控えと単価高から荷動きが鈍く、厳しい販売となりました。

3月以降は、全国的に気温が上昇し、平均気温が観測史上最も高く、その後は非常に順調な入荷の見通しでしたが、全国的な低温と降雨により生育が非常に鈍く、安定数量が見込まれた県内のにんにく、北海道産の玉葱やじゃが芋以外の殆どの品目が単価高で推移しま

多くなりました。また例年に比べ各産地において、鳥獣害が多発しました。販売面では競合する他県産りんごや他の果物の入荷量減少、業者の長期貯蔵用の本格的な仕入れ、円安の影響による輸出需要の高まりから、総体的に引き合いが強く、好調な取引となりました。



また、県内の大型野菜や果菜類は、雪解けが進んだことで定植が早まり、入荷が昨年より1週間程早くスタートしました。しかし、関東産の出回りとの重なり、野菜全般に単価安が続きました。

7月以降からは、猛暑の影響から生育不良となり、品質低下や病害虫の発生が散見され、入荷量が増えませんでした。販売面においても、消費者の購買意欲の低下が、荷動きの鈍い状況に拍車をかけました。秋にかけては、高温と干ばつの影響から、東北、北海道産の葉物、果菜類、大型野菜と殆どの品目で入荷量が減少し、全国性的に出回り量が少なく、単価高で推移しました。県内主力のごぼうだけは、生育良く

潤沢な入荷となりました。

今後、県内産については、ニンニク、長芋がピークを迎え、ごぼうは貯蔵品を中心に、潤沢な入荷が見込まれます。県外産は例年並みの順調な入荷が予測されますが、北海道産玉葱は、高温障害の影響から出荷量が少なく、単価高が続く見通しです。

国産果実

【県内果実】
つがりあんメロン「アムさん」は、肥大型において天候に恵まれたこともあり、順調な入荷となりました。販売においては、各種値上げの影響から、取引が低迷していた時期もありましたが、ギフト需要等で徐々に荷動きが活発化した結果、高単価で推移した昨年に近い単価と数量増で、堅調な取引となりました。後続の「つがりあんメロン」は

いずれも平年に比べ高単価での取引となりました。

年々販売を伸ばしている桃は、今年から中生種の選果を始め、例年より3週間早い8月4日から選果機を稼働して、入荷販売となりました。「シャインマスカット」は潤沢な入荷となり、貯蔵品を中心に、他県産の出回り量が少ないことから順調な取引となりました。「スチューベン」は、正品率が少なく入荷減となりましたが、全国的に引き合いが強く、単価高での取引となりました。一方、夏秋いちごは、猛暑の影響から生育不良となり、大幅な減少となりました。

輸入果実

輸入果実の取引は、気候的、政治経済的な要因に大きく左右されました。入荷量や相場形成、販売面に大きな影響を及ぼした要因としては、①品目にも依りますが、不安定な国際情勢や円安等が要因で、全体的に日本入荷が少ないこと。②世界的な気候変動が生育に大きく影響し、品質が不安定になっていること。③原油や原材料価格の高騰による輸送費等の値上げ。④単価高による、国内での売れ行きが、過去に類を見ない程に厳しいことが挙げられます。

こうした要因から、産地での生産コストや、日本への輸送コストの上昇、円安による影響で、値上がり傾向が今後も続く予測されます。

精算所営業時間案内

弘果
【期間】～12月29日(金)
【時間】6:30～17:00
12月29日(金)は15:00まで
【期間】1月5日(金)～
【時間】7:00～16:00

津軽りんご市場
【期間】～12月29日(金)
【時間】8:00～17:00
12月29日(金)は12:00まで
【期間】1月5日(金)～
【時間】8:00～16:00

両市場とも土曜日・市場休は休みてす

止市	初市
【弘果 弘前中央青果】 りんご 12月28日(木) 8:00～ 青果 12月29日(金) 6:00～	【弘果 弘前中央青果】 青果 1月5日(金) 6:30～ りんご 1月5日(金) 8:00～
【津軽りんご市場】 12月28日(木) 8:00～	【津軽りんご市場】 1月5日(金) 8:00～
【弘前花き】 12月27日(水) 12:00～	【弘前花き】 1月5日(金) 12:00～

緑起物ずらり会場を彩る

当社第2卸売場特設会場において11月22日、弘前市下湯口の岩崎智里さんが手掛けた文字絵りんごの研究発表会が行われました。来年の干支「辰」や招き猫、クリスマス関連の絵柄が入った55種類179点の作品が展示され、競



創作文字絵りんご研究発表会

岩崎さんは競売後「今年は高温の影響から、落果や着色不良、鳥害等により、昨年比べて出品数が激減し、非常に心残りでした。しかし、高値で取引していただいたことがあり、今後の制作の励みとなります」と話していました。

売では、七福神や松竹梅等、緑起物の文字絵が入ったムツ24個で構成された「宝船」が当日最高値の15万円で取引されました。

「農」の「業」を継ぐ

期待の後継者



大澤晃也さん (33)

家業である「農業」に希望を見出し、夢に向けて努力する期待の後継者を紹介します。

【園地所在地】つがる市木造吹原
 【作付状況】シャインマスカット・ハウス2棟160坪、トマト・60坪他
 【就農年】2015年
 【きっかけ】自動車関連の仕事に就いていましたが、結婚をきっかけに、妻の実家で経営している農業生産

法人の存在を知りました。そこで従事している妻が、生き活きと仕事をしている様子を見ているうちに興味湧き、仕事を見学、体験してみた結果、自分に合っていると感じました。全くの未経験の世界へ飛び込む不安や葛藤もありましたが、家族の後押しもあり、就農を決定して、妻の後輩として「入社」しました。

【現在】当社は多角経営で様々な農作物を生産していますが、その栽培管理や出荷を行うことで、農業に関する色々な知識を得て、経験を積むことができました。特に近年は、シャインマスカットの将来性を見込んで栽培を開始し、今年本格的な出荷を迎えます。弘果農産指導課の栽培指導を仰ぎ、大粒且つ高品質な生産に励んだ結果、納得がいく品質での収穫、出荷となりました。

【夢・展望】生産する農作物は「商品」である意識を持っています。

その価値を高めるために、栽培管理を徹底し、栽培技術の向上に努めています。自分ももとより、家族、社内にも「生産管理」の考え方をより一層浸透させていくことが、信頼の品質へ繋がると考えています。

【座右の銘】経営者はもう少し、漁師の精神を学ばなければいけない。漁師は釣れなければ、狙う魚を変え、道具を変え、場所を変える。いつも同じところにじっとして、魚がいないと嘆いているだけではダメだ。釣りが趣味で、仕事の合間に近所の海で釣りをしています。その釣りに関する調べ物をする際に出会った言葉です。趣味(釣り)や仕事、人生においてもこの言葉の通り、試行錯誤、創意工夫をして、結果が出せるように励んでいきたい。



シン(新)パッケージお披露目

ご研究会(平川剛志会長)は12月6日、品質や出荷規格の統一を図る目揃え会を行いました。

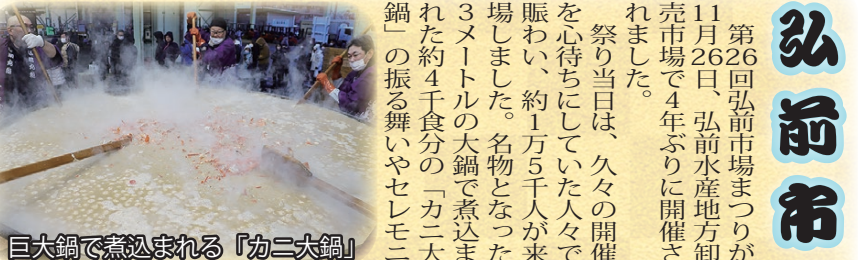
同会が出荷するいちごは、平成28年から田舎館ご当地キャラクター「いち姫」がデザインされたパッケージをまとい、「食味」「品質」にこだわって生産しています。そして、青森県内外へ「いちごの産地」田舎館「美味しいいちご」田舎館産を発信して

す。そして今年も、長年親しまれてきた初代「いち姫」デザインをリニューアルしました。2代目デザインのお披露目は、目揃え会と同日に「いち姫」本人がご臨席のもと行われました。

平川会長は目揃え会について「出荷に向け、共通の意識を持ち取り組むことを確認する良い機会」と成果を話し、新パッケージについては「お互いに『田舎館』を冠するブランドとして、その相乗効果で更なる認知度の高まりに期待しています」と、「いち姫」とコラボする意義を強調していました。

第26回弘前市場まつりが11月26日、弘前水産地方卸売市場で4年ぶりに開催されました。

祭り当日は、久々の開催を心待ちにしていた人々で賑わい、約1万5千人が来場しました。名物となった3メートルの大鍋で煮込まれた約4千食分の「カニ大鍋」の振る舞いやセレモニ



4年ぶりの開催で大盛況

来場者は「久しぶりの弘前市場まつり」開催を心待ちにしていました。朝早くから「カニ大鍋」の列に並び、このまつりに来た実感が湧きます。独特の雰囲気と活気ので、新鮮な魚介類や野菜・果物を求めて、思い存分買い物を楽しみたいと話していました。



弘前花き 花育活動

弘前花きでは11月21日、元長町にある養生



フラワーアレンジメントを楽しむ園児たち

幼稚園にて花の体験学習を開催しました。

この体験学習は、「青森県花のく」にづくり推進協議会」の花育体験園芸体験の一環で、花をもっと身近に感じてもらうという様々な場所で行っています。

今回はピンポン菊やガーベラ、カーネーションを中心にアレンジメントを楽しみ、21名の園児は講師のアドバイスを聞きながら熱心に作品を作り上げていきました。

園長の齊藤弘子さんは「子ども達は、日頃の感謝を込めて家族へ贈るといふことで、気合いが入っており、どれひとつとして同じものが無く、素晴らしい作品ができあがったと思います。また、こうして花と触れ合うことは、とても幸せなことだと本当に感謝しています」と話していました。

この「花育」活動は、今後も様々な場所で開催予定です。

りんご剪定勉強会 開催のお知らせ

- | | |
|---------------------|---|
| 弘果りんご連絡協議会 | 1月12日(金) 9時30分～
場所：成田美保子氏 園地
講師：成田淳逸氏、齋藤力氏、成田毅氏 |
| 浪岡 | 1月9日(火) 9時30分～
場所：前田正彦氏 園地
講師：工藤良和氏、有馬千代志氏 |
| 平賀 | 1月11日(木) 9時30分～
場所：葛西誠氏 園地
講師：三浦修氏、葛西厚平氏 |
| 大紅栄 | 1月15日(月) 9時30分～
場所：(有)ヤマセ農園 園地
講師：工藤浩政氏、竹内源三氏 |
| 津軽りんご市場連絡協議会 | 1月13日(土) 9時30分～
場所：白鳥一成氏 園地
講師：館山毅氏、田沢明裕氏、葛西伸氏 |

